

O2-016

保育所(園)・こども園におけるアナフィラキシー初期対応シミュレーション訓練の効果

阿久澤 智恵子¹、青柳 千春²、金泉 志保美³、
松崎 奈々子³、今井 彩⁴、佐光 恵子³

¹埼玉医科大学保健医療学部

²高崎健康福祉大学保健医療学部

³群馬大学大学院保健学研究科

⁴富岡看護専門学校

【目的】

保育施設のアナフィラキシー救急処置体制の改善を目的に実施したシミュレーション訓練の効果を経験する。

【研究方法】

保育所(園)・こども園7施設の職員145名に対して、食物アレルギーに関する講義およびエビデントレーナーを使用した実技訓練後、食物アレルギーを有する乳幼児のアナフィラキシーショック発現を想定したシミュレーション訓練を加えた研修を実施した。その後デブリーフィングを行い、自施設での救急処置体制について気づいた改善すべき点、また、訓練実施6か月後に、救急処置体制について改善を行った具体的な内容について自由記述をしてもらった。1文に1つの意味・内容の記録単位とし、内容分析の手法を用いて分析を行った。

【結果】

自由記述に回答した141名の記述を有効回答とした。救急処置体制の改善点として、271記録単位から30のコード、12のサブカテゴリーが抽出され「職員全体のアナフィラキシー対応の知識・技術・意識を向上させる」「施設独自のアクションプランを作成する」「マニュアルの内容の見直し・修正を行う」「保育所(園)内の設備・体制の整備を行う」「アナフィラキシー対応中の子どもへの配慮を行う」の5つのカテゴリーが形成された。また、訓練終了6か月後は、94名の記述を有効回答とした。救急処置体制を改善した点については、151記録単位から22コード、7サブカテゴリーが抽出され「施設独自のマニュアルの整備に着手した」「事故予防策の強化を行っている」「園内・園外との連携・協働を強化するようになった」「食物アレルギー児への人権・権利を守る配慮をするようになった」の4つのカテゴリーが形成された。

【考察】

デブリーフィングは、「シミュレーション終了後に学習者が自己評価したり誤りを修正したりする内省を促すこと」と定義されている。シミュレーション訓練により保育所職員の危機管理意識が高まり、各施設の救急処置体制を整えていくべき具体的内容が明らかとなった。また、訓練6か月後には、各施設で整えていくべき組織や物理的環境について、実施可能な部分から改善するという行動変容がみられた。講義、実技訓練に、シミュレーション訓練を加えた一連の研修プログラムにより、アナフィラキシー初期対応の具体的なイメージが可能となり、各施設の救急処置体制の具体的な改善に繋がった。本研究は、JSPS科研費基盤研究(C)(課題番号17K01908)の助成により行った研究の一部である。

O2-017

児童参加型のイノベティブな傷害予防プログラムの実施

大野 美喜子^{1,2}、西田 佳史^{1,2}、北村 光司^{1,2}、
山中 龍宏^{2,3}

¹産業技術総合研究所 人工知能研究センター

²Safe Kids Japan

³緑園こどもクリニック

【目的】

本研究では、子ども自身が傷害予防の3E(法制化: Enforcement、環境改善: Environment、教育: Education)を学び、「予防」の視点を獲得することを目的に、東京都豊島区立富士見台小学校と連携し、学校安全のための安全学習カリキュラムを実施した。

【方法】

小学5年生44名を対象に、7時間(45分7コマ)の安全学習授業を実施した。前半の2時間は座学、後半の5時間はワークショップ形式で行った。前半の座学では、予防の考え方および校内・校外の安全について学習した。後半のワークショップでは、まず、子どもに校舎内にある危険な場所の写真を撮ってきてもらい、どこが危険か、どうしたらその事故を予防できるかを話し合った。また、小学校で取り組んでいる傷害サーベイランスのデータに基づき実際に起こっている校内の事故について学び、自分達が撮ってきた写真と照らし合わせながら認識している危険と実際の事故とのギャップについて議論した。最後に、予防を可能とする製品のデザイン(キッズデザイン)を考案し発表し合った。

【結果】

生徒は、階段が9枚、教室が29枚、廊下が62枚の計100枚の写真を撮影し、ワークショップに取り組んだ。写真には、階段を段飛ばしで駆け降りる姿を模擬した様子、階段の途中にある死角、棚の上に積み上げられた荷物、フックに沢山の物がかけられ通行の邪魔になっている様子などが収められていた。生徒が発表したキッズデザインのアイデアには、画鋲が掲示板から落ちた時に、針が引っ込む仕組みのあるもの、ある程度の衝撃がかかるとエアバッグが作動する階段、画鋲は使用せず、トカゲかヤモリの足の成分を活用して紙を貼ったりはがしたりする掲示板、埋め込み式のエントランスマット、掃除用具と掃除用具入れの両方に磁石をつけ、用具を投げ入れてもきちんと収まる掃除用具など、ユニークで面白いアイデアが多くてた。最後に、先生や傷害予防の専門家と協議しながら、生徒が発表したキッズデザインのアイデアから特に優れたものを7つ選び、専門家からの評価ポイントを発表して生徒へのフィードバックを行った。

【考察】

本研究では、傷害予防でもっとも優先的に取り組むべきとされている環境改善の視点で自分達の身の回りにある危険を考え予防策を考えることができた。この学習をとおして、子どもが安全な環境をデザインする視点を獲得し、将来の安全な社会づくりに貢献してくれることに期待したい。